

教育委員会協議会 会議録

平成29年度第3回教育委員会協議会

場所：南国市保健福祉センター 3階「多目的ホール」

(1) 開会及び閉会に関する事項

開会 平成29年11月30日(木) 18:00

閉会 平成29年11月30日(木) 20:00

(2) 教育委員会出席者及び欠席者の氏名

出席委員	教育長	田村 壮児
	教育委員	平田 健一
	教育委員	竹島 晶代
	教育委員	八田 章光
	教育委員	中橋 紅美
	教育委員	木村 祐二

(3) 高知県教育委員会会議規則第8条、第9条の規定によって出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長	北村 強
〃	教育次長	藤中 雄輔
〃	教育次長	永野 隆史
〃	教育政策課課長	酒井 啓至
〃	高等学校課課長	高岸 憲二
〃	高等学校課企画監(再編振興室長)	山岡 正文
〃	高等学校課課長補佐	藤田 優子
〃	高等学校課再編振興担当チーフ	池上 淑子
〃	高等学校課指導主事	野中 昭良(会議録作成)
〃	教育政策課指導主事	小島 丈晴(会議録作成)

【開会】

田村教育長	<p>ただいまから、県立高等学校再編振興計画の「後期実施計画」に関する、第3回高知県教育委員会協議会を開会させていただきます。最初にご挨拶を申し上げます。</p> <p>本日は、県立高等学校再編振興計画の「後期実施計画」に関して検討する教育委員会協議会を開催いたしましたところ、法光院香美市長様、大野南国市教育長様、山本香南市教育委員様の、御三名にはご発言をいただくために、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>またそれ以外にも、この問題に関心を持っていただいている皆様方にご出席をいただき、大変ありがとうございます。</p> <p>この県立高等学校再編振興計画は、急速に減少していく生徒の数を見据えながら、また、南海トラフ地震への対応をも考慮し、情報化、グローバル化が進み、変化の激しい時代に対応する、そういった新しい教育環境に適した、県立高等学校の在り方を示そうとするものでございます。</p> <p>平成26年10月に、平成26年～30年度を実施計画とする「前期実施計</p>
-------	--

平田委員	<p>画」と併せて策定をしております。その計画の中では、平成 31 年～35 年度を期間といたします「後期実施計画」について、前期実施計画期間中に策定することとなっております。先日、10 月 24 日を皮切りに、この協議会をスタートしたところでございます。</p> <p>県立高校は、地元の皆様にいろんな面で大変お世話になっておりますし、また逆に、地元の皆様から、いろんなご期待もいただいているというふうに思っております。</p> <p>このため、今回の「後期実施計画」の検討に当たりましては、県内を5つのブロックに分けまして、それぞれの地域の方に出向きまして、この計画に関心を持っていただいている皆様から、ご意見を伺うことといたしました。</p> <p>「前期実施計画」では、計画が固まってから、改めて公表するということをいたしましたけれども、この「後期実施計画」の検討に当たっては、検討の当初から、そういった地元の皆様のご意見を伺って、それをできるだけ反映する形で計画を固めてまいりたいと、そういうふう考えております。</p> <p>本日は、ブロック別にご意見を伺います第2回目の会ということになりますので、どうかよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、本日の議事録への署名人は平田委員、よろしくお願いいたします。</p> <p>はい。</p>
------	---

【議題】

○県立高等学校再編振興計画「後期実施計画」の策定について

田村教育長	<p>それでは、県立高等学校再編振興計画「後期実施計画」の策定について、高等学校課の担当の方から説明をしてもらいます。</p>
山岡企画監	<p>まず一つ目の、県立高等学校再編振興計画「後期実施計画」の策定についてというところで、資料1から資料5まで説明させていただきます。</p> <p>まず、資料1です。県立高等学校再編振興計画は、平成26年10月に策定いたしました。その実施計画の後期分、平成31年～35年度の策定スケジュールを載せております。</p> <p>まず、「後期実施計画」の「中間とりまとめ（たたき台）」を、来年4月に策定するに当たりまして、教育委員会協議会という公開の場で、広く県民の皆様の意見を聴きながら、取組を進めていきたいというふうに考えています。</p> <p>前回は、事務局のみでたたき台を決めていましたが、今回の「後期実施計画」の策定は、このたたき台を出す前の段階から、広く地域の皆さんの意見を聴きながら、丁寧に実施していきたいというふうに考えています。</p> <p>1回目の教育委員会協議会は、先月24日に開催し、県立中学校・高等学校の現状等に関して協議をいたしました。</p> <p>2回目～6回目までは、東部、中部、北部、高吾、幡多の各地域に出向いて、地域別に、各地域内の学校についての再編振興に関する意見を聴く</p>

会議、地域会を開催することにしています。本日は、この地域会の2回目です。

7回目以降は、地域会で出た意見を踏まえながら、「中間とりまとめ（たたき台）」の策定に向けて、委員の皆様にご協議いただくことにしています。

平成30年度当初、4月下旬ごろに「中間とりまとめ（たたき台）」の決定を行い、その内容を公表したいというふうに考えています。

それ以降は、「最終とりまとめ（パブコメ案）」の策定に当たり、大きな影響が予想される学校の関係者、校友会やPTAなどにも参加していただき、開催したいというふうに考えています。

平成30年9月ごろに、「最終とりまとめ（パブコメ案）」を決定し、12月ごろには、「後期実施計画」を策定したいというふうに考えております。

続きまして、資料2の津波浸水域の県立高等学校の一覧について、説明させていただきます。

津波浸水域にある県立高等学校は13校あり、最大クラス（L2）の地震・津波が発生した場合で、堤防なしの時の浸水深と、30cmの津波が到達するまでの時間を表にしています。

浸水深が最も大きいのは、土佐清水市の清水高校で、浸水深が12mであり、この地域では、城山高校が4mとなっています。

また、30cmの津波が到達するまでの時間が最も短いのは、清水高校が11分であり、この地域では、城山高校が39分というふうになっています。

「前期実施計画」における南海トラフ地震への対応として、適地への移転や、そのための統合の可能性を含め、対応を検討することが必要な学校は、安芸高校、高知南高校、須崎高校、宿毛高校、清水高校の5校です。

そして、避難場所としては、校舎の上の階や屋上という学校が7校あります。城山高校は南舎屋上、地域住民は北舎屋上というふうな形になっております。

続きまして、資料3をご覧ください。資料3は、地域別中学校卒業生数の推移であります。

「前期実施計画」でも、時点は違いますが、同じグラフを載せていました。今回のグラフは、平成29年3月までが実績で、平成30年3月以降が推計というふうになっています。

そこにもありますように、平成29年3月の卒業生は6,543人であり、平成25年3月を基準とした場合、4年間で▲（マイナス）238人、率にしまして3.5%の減となっていますが、平成35年3月の卒業生は5,543人であり、10年間になりますと1,238人の減、▲18.3%となっています。

平成25年3月を基準とした場合、平成29年3月の卒業生を地域別で見ると、高吾地域が▲118人と、減少した人数、減少した割合ともに他の地域に比べて大きくなっています。

平成25年3月を基準とした場合、平成35年3月の卒業生を地域別で見ると、減少すると見込まれる人数は、この中部地域が最も多く551人、次いで高吾地域、幡多地域がともに252人となっておりまして、減少すると見込まれる割合は、北部地域が最も高く36.5%、次いで高吾地域が34.0%となっています。

続きまして、資料4をご覧ください。平成27年度以降の入学者数又は在籍者数の実態について、記載しています。

平成 27 年度～平成 29 年度までの全日制、多部制単位制（昼間）、多部制単位制（夜間）、定時制ごとの入学定員、入学者数及び在籍者数の一覧表です。

表の見方をご説明いたします。全日制の本校の最低規模は、1 学年 2 学級以上が必要というふうになっています。表の右から 4 つ目に、「1 学年 2 学級以上」というふうな所に「●（黒丸）」が入っている学校は、最低規模が 1 学年 2 学級以上というふうになっています。

ただ、過疎化が著しく近隣に他の高等学校がないといった、中山間地域の学校は、最低規模を 1 学年 1 学級 20 人以上などとすることにより、できるだけ維持することとしています。

また、不登校や中途退学を経験した生徒、発達障害のある生徒などを受け入れる体制を整えた学校についても、最低規模を 1 学年 1 学級 20 人以上として、維持することとしています。そうした学校は、真ん中の「1 学年 1 学級（20 人）以上」という所に「●（黒丸）」が入っている学校であります。

そして、定時制夜間部の学校は、学校全体の生徒数、在籍者数を 20 人以上に緩和して、各地域での維持に努めることにしています。そうした学校につきましては、「全体で 20 人以上」といった所に「●（黒丸）」が入っています。

そうした一覧表になっておりまして、そのなかで、人数が白抜きになっている所は、その最低規模を下回っている学校であります。

そして濃い網かけは、入学定員に対しまして入学者数が 40 人、1 クラス以上少ない学校、学科であります。薄い網かけは、入学定員に対して入学者数が半分以下の学校、学科であります。

この地域につきまして、まず全日制から説明させていただきます。

城山高校は、定員 80 人に対しまして、平成 27 年度から順番に申しあげまして、61 人、40 人、46 人ということになっています。

山田高校は、普通科 160 人、商業科 40 人、合計 200 人に対しまして、27 年度から、139 人、147 人、158 人ということで、着実に増加しております。

高知農業高校は、農業に関する学科に、農業総合科、畜産総合科、森林総合科、環境土木科、食品ビジネス科、生活総合科があり、それぞれ定員は 40 人です。学校全体では、定員 240 人に対しまして、27 年度から順番に申しあげますと、196 人、193 人、205 人となっています。

高知東工業高校は、工業に関する学科に、機械科、機械生産システム科、電子科、電子機械科があり、それぞれ定員は 40 人です。学校全体の定員 160 人に対しまして、27 年度から順番にいきますと、109 人、124 人、115 人となっております。

岡豊高校は、定員が、普通科は 240 人、普通科の芸術コースが 40 人、普通科の体育コースが 40 人です。学校全体で定員 320 人に対しまして、27 年度から順番に、296 人、305 人、303 人となっています。

続きまして、A 3 の表の右の半分から下に、定時制の所があります。定時制夜間部につきましては、最低規模を学校全体の生徒数 20 人以上としているところです。

山田高校では、そこにありますように、38 人、32 人、29 人というふうな推移となっております。

	<p>そして、高知東工業高校では、27年度から順番に、33人、40人、34人というふうになっております。</p> <p>定時制につきましても、全日制につきましても、特に最低規模を下回っている学校はございません。</p> <p>続きまして、資料5をご覧ください。この資料5は、「前期実施計画」からの継続検討事項、そして、「県立高等学校再編振興計画」で定めた適正規模に関する検討事項、という資料になっておりますけれども、この南国市・香南市・香美市の地域では、特に継続検討事項とか、適正規模に関する検討事項に、直接関係するところはございません。</p> <p>ただ、それぞれ適正規模に関する事項につきましては、本校、分校、併設型中高一貫教育校、そして総合学科の学校、定時制夜間部というような項目で載せております。</p> <p>一つ、関係するところといいますと、併設型中高一貫教育校といったところではないかというふうに思います。併設型中高一貫教育校につきましては、東部、中央部、西部の3地域での配置を維持するものと、「前期実施計画」では記載されています。</p> <p>この点、現状課題としましては、県立安芸中学校の志願者が減少し、生徒の確保が課題となっているというところでございます。県立安芸中学校につきましては、平成29年度において定員60人に対しまして、志願者が36人に留まりまして、入学者が35人というふうになっております。</p> <p>資料5につきましては、項目に関する、特別この地域に関係するところがございませんので、説明としては以上にさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。</p>
田村教育長	<p>今の説明ですけれども、これまでの説明してきたことの確認ということになっておりますので、委員の皆様よろしいでしょうか。</p>
各委員	<p>はい。</p>

○中部地域①（香南市、香美市、南国市）の県立高等学校の現状、今後の状況について

田村教育長	<p>それでは引き続いて、資料6の方の説明をしてもらいます。</p>
山岡企画監	<p>資料6をご覧ください。これは、「前期実施計画」で明記した学校の在り方に係る現在の状況について、県の教育委員会の方で、取りまとめをしたものでございます。</p> <p>城山高校につきましては、そこにも書いておりますけれども、基礎学力の定着を図る教育課程の実現や、進級等に関して柔軟な対応ができるよう、29年度から全日制単位制に改編していると。そして2学期制の導入や、学び直しの学校設定科目をしているといったようなことがございます。</p> <p>そして、生徒を個別に支援するというところで、生徒支援委員会も毎月開催するとかというところですよ。</p> <p>そして、4年制大学進学への意識も高まっているというところですよ。就職につきましても、1回目の試験で第一志望の就職先に内定をもらう生徒が大半ですよ、というところですよ。</p>

山田高校につきましては、まず全日制につきましては、高知工科大学との連携を深めておりまして、月1回の連携会議を開催して、高大連携の強化を進めているというところです。学習支援とか部活動支援、進路相談などに関わっている大学生が、60人を超えているというようなところがございます。

そして、「香美学園都市構想」を具現化するために、香美市教育委員会、工科大、そして山田高校の3者で月1回、香美教育コラボ会議を開催して、香美市こども会議なども開催するといった取組をしていると。

そして、文部科学省の「学校地域協働本部事業」なども受託し、地域課題探究学習に取り組んでいるというところがございます。

進学指導としましては、国公立大学への現役進学者数は、平成26年度から、12人、12人、それから16人ということで、着実に増加しているというところ。就職につきましても、5年連続で就職内定率が100%というところではあります。

そして、商業科につきましては、そこにも書いていますけれども、第8回全国商い甲子園最優秀賞、そして高知工科大学長賞などをいただいている。そして、高知県地場産業大賞次世代賞なども、受けているといったようなところがございます。

定時制につきましては、3年で卒業できる、三修制なども実施していると。そして、就職希望者の内定率は、8年連続で100%となっております。

高知農業高校につきましては、3年間で入学者数は49人増加していると。在籍生徒数も93人増加しているというところがございます。その理由としましては、プランター草花管理や高校生レストランなど、地域と連携した取組を着実にしているというようなところがございます。

進路につきましては、進学が6割～7割、就職が3割～4割というところで、国公立大学進学者は、平成26年度に6人、平成27年度に3人というようになっています。

「学校で学んだことを生かせる進路選択」というところで、多くの学生がそういった進路を決定しているというところではあります。

高知東工業高校につきましては、学習支援員の活用や専門教科でのフォローアップ、加力補習などを実施しているというところになっております。また、ものづくりを通じての社会性の育成。

そして、理工学科が募集停止をしたんですけれども、そのノウハウを残った学科に活かせるような学科改編も行ったというところがございます。

国公立大学進学者は、平成26年度に1人、平成27年度に4人、平成28年度に2人というところになっております。

そして、資格取得や技術の習得にも力を入れている、そういったことで、企業の見学なども実施しているというところではあります。

定時制では山田高校と同じように、3年で卒業できる三修制を実施している。そして、キャリア教育にも力を入れているというところがございます。

岡豊高校につきましては、5つの系列と2つのコースにより、生徒の実態や進路希望に即した学びを提供していると。

そして、今年から遠隔教育の指定を受けて、大規模校のメリットを生かして、遠隔地の高等学校への授業配信などにも取り組んでいるというところ

	<p>ろです。</p> <p>そして、国公立大学への進学は、平成 26 年度から 21 人、23 人、平成 28 年度が 17 人というふうになっております。</p> <p>そして、平成 29 年度からは、中部地域の運動部活動強化拠点校として指定を受けているといったところで、運動部、文化部とも、全国大会に出場して活躍しているというようなところでございます。</p> <p>続きまして、資料 7 をご覧ください。これは資料 3 に、地域別中学校卒業生数の推移というのがありますけれども、中部、合併前の旧市町村単位ごとに、中学卒業生の推移というのを載せております。</p> <p>城山高校の香南市の分につきましては、平成 29 年 3 月が 308 人から、平成 30 年 3 月には 262 人になるというような推計です。</p> <p>香美市につきましては、192 人から 164 人、南国市につきましては、365 人から 342 人になると。この 1 年間で、こういった推移が見込まれているということです。説明は以上です。</p>
田村教育長	今の説明につきまして、ご意見、ご質問ございますか。ありましたらお願いします。よろしいですか。
各委員	特になし
田村教育長	特にないようでしたら、地域代表の皆様からのご意見をお願いしたいと思います。

○地域からの意見聴取

ア 香南市

田村教育長	<p>まず初めに、香南市の山本教育委員様の方から、よろしく願いいたします。</p>
香南市教育委員	<p>城山高校の校友会の会長を仰せつかっております。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>城山高校は、他の学校とほぼ同じだと思いますけれども、終戦間もない、昭和 21 年に県立中学校、同高等女学校を皮切りに、昭和 23 年に新制高等学校に改編をされまして、現在に至り、その間、色々と設置下には変遷があっておりますけれども、現在に至っておるところでございます。</p> <p>この学校の設立には、地域の方々の強い要望があつて、できたといったことを承っております、その影響もあつてか、地域の支援や協力には、非常に大きなものがあるというふうに感じております。</p> <p>香南市には、介護関係の施設が多く、卒業生も多く働いていて、現在高等学校の教育課程の中で、普通科に福祉教育を取り入れて頑張っているところでございますが、卒業生は、その施設あるいは保育所、市役所等にも多く働いております、香南市の市議員さんも 5 名おいでます。</p> <p>また校友会は、母校に本部を置きまして、関東には関東校友会という支部のようなものでございますが、関西には関西支部がございまして、それぞれに、総会あるいは親睦会といったようなものを開催して、非常に活発</p>

に活動をしております。

昨年 11 月には、創立 70 周年記念事業と式典を行いましたけれども、式典には 350 名余りの方々が参加をしてくれまして、関心の高さが伺われました。校友会の関係の者は、母校の活動を非常に関心を持って見ております。特に、関東に出られた方々は、草創期の方が非常に多くおまして、また母校の活躍を心待ちにしておる方も多くおります。

記念式典の折には、お隣の香美市からも多大なご支援をいただきまして、本日おいでの市長様をはじめ、関係の方々には大変お世話さまになりました。この場をお借りしまして、厚くお礼を申し上げておきたいと思っております。

城山高校は、一時期、1 学年 1 クラスという状況に追い込まれておったことがございますけれども、現在、地域の方々のご支援や県教育委員会のご理解をいただきまして、1 学年 2 学級に復帰をいたしております。

そして、その中に、介護福祉の教育に重点を置いて取り組んでおるところでございますが、学校の周辺施設にも福祉施設がたくさんございます。そして、周りの中学校や保育所、幼稚園等との連携のもとに、この福祉教育を進めておまして、多くの成果をあげております。

そして、一時期心配されておりました、1 学級のころでございますけれども、学習面にも色々心配をいたした時期もございまして、本年度におきましては、大学進学が 4 名、4 年制大学 3 名、うち公立の 4 年制大学には 1 名合格をいたしております。

また就職面は、現在 100% の就職率を達成しておまして、本年度は、技研製作所さんにもお世話になることが決定をいたしております。

学校といたしましては、現在の学習面ばかりでなく、福祉教育にも重点を置き、周りの方々との連携も非常に深まってきております。

そして、赤岡中学校との、あかしろ農園といったようなものもございまして、共同で活動をいたしております。

そして地域では、美化活動としての清掃や、防波堤への絵画の活動、さらには防災活動における地域の方々との協働での避難所運営等に、先進的な活動提示をして活躍をいたしております。

地域では、そうしたことにリーダー的な役割も果たしておまして、このような活動を通じまして、城山高校の周辺にはじわりと、福祉の心といったようなものが浸透してきたのではないかと、いうふうに思っております。

今、県立高等学校で福祉教育を取り入れているのは、室戸高校と城山高校の 2 校でございます。福祉情勢は、現在、施設型の介護の在り方から、在宅介護への転換の方向が言われておるところでございますけれども、本県の状況を見ましても、今後高齢化の社会への突入が言われております。

今後の状況といたしましては、非常に活躍の場と申しますか、そういったものも用意をされておる以上に、必要な活動であろうかと思っておりますので、そういったことも先々、非常に有効に働いていくのではないかと申します。

ただ、私といたしましては、介護福祉といったようなものは、高齢社会としての活動でございますので、若い高校生、青年が取り組む活動としては、色々苦勞もあろうかと思っております。学校教育活動の中でということと考えておきますと、その他に色々夢や希望のある学校の活動も、期待をして

	<p>いきたいと思っております。</p> <p>そのような観点から、十分ではないかもしれませんが、以上のようなご説明をさせていただきました。今後とも、城山高校の福祉教育と学校教育にご理解をいただけますよう、切にお願いを申し上げます、私の話とさせていただきます。どうもありがとうございました。</p>
田村教育長	<p>どうもありがとうございました。今ご説明いただきましたけれども、ご質問等おありでしたら、よろしく願います。</p>
中橋委員	<p>ありがとうございました。先ほどのお話を聞いていますと、城山高校は、かなり地域と密着していて、卒業生からも熱い思いがあるということが分かりました。</p> <p>ご説明の最後に、夢や希望のある学校の活動を期待しているというお話がありましたけれども、城山高校として、どういう学校であってほしいと思っているのか。そして、それが今、その思いと合致しているのか、合致していない部分があるとすれば、どんなことをすれば合致するのか、教えていただきたい。</p>
香南市 教育委員	<p>先生方のご努力によりまして、次第に成果も上がってきておりますけれども、残念ながら、人数が急激には増えておりません。</p> <p>そういったことで、現在、子どもたちの部活動とか、いろいろな子どもたちの活動が、人数により制限をされる場所があります。そういったことで、やはり子どもたちが十分な、自分たちの思いを持って活動ができる、というようなことを、若い者の活動として考えれば、できるだけさせてやりたいというように思うわけでございます。</p>
中橋委員	<p>それに関連するかもしれませんが、香南市からの城山高校への進学割合というのは、もしご存じであれば、教えていただきたい。</p>
香南市 教育委員	<p>数字的に把握をしておるわけではございませんが、それぞれの学校からは少数だと思っております。</p>
中橋委員	<p>今現状、城山高校は他の市町村からの入学者の方が、圧倒的に多い状況ということでしょうか。</p>
香南市 教育委員	<p>いや、そういうことではありません。それぞれの学校から、わずかずつというようなこともあります。近年、香南市内の学校からの進学者というのは増えております。</p>
中橋委員	<p>ありがとうございました。</p>
田村教育長	<p>その他、いかがですか。</p> <p>先ほどのお話で、福祉教育に力を入れているということは、それはそれでいいということなんです。それ以外にももう少し、というような部分を伺ったんですけれども、その福祉教育以外の特に力を入れる分野として</p>

香南市 教育委員	<p>は、どんなふうを考えられていますか。</p> <p>何をどうということは、よく分かりませんが、先ほど申し上げました、部活動とか趣味、そういったことも一緒に活動ができるということも大事だと考えています。</p> <p>福祉だけでなく、やっぱり在学生の中には、いろんな方向を目指したい子どもも入ってくると思いますので、そういったことにも取り組める。あるいは進学方向でも、いろんな方向があろうかと思っておりますので、そういったことにも、将来の夢が描けるような活動はさせてやりたいというふうに思っております。</p>
八田委員	<p>ありがとうございます。赤岡にあるので、赤岡というまちは今すごく、まちとしてはすごく活気があって、すごい元気なまちという感じをいつも受けるんですけども、その中にある学校ということなので、何かその、まちとして城山にこういうことを期待するとか、そういうものは何かあるんでしょうか。地域の想いというか。</p>
香南市 教育委員	<p>一つには、赤岡町には絵金歌舞伎の伝統というのがあります。その活動を何か高校生と一緒にできないかと。高校生にも体験させながら、やっていけないかといったご意見をいただいております。</p> <p>それから、部活動の問題ですね。</p>
八田委員	<p>まちの産業に直接つながるような、何かそういうのはないですか。もちろん福祉とか介護の仕事は、あるわけですけども、そのまちのこれからは背負って立っていくような、そういう何か思い入れがあるとすごく、学校としてもそれに向かって行きやすいかなという気がするんですけど。</p>
香南市 教育委員	<p>その点につきましては、周りは農産業が非常に多く行われておりまして、その他の活動につきましては、私の方はちょっとご意見を伺っておりません。</p>
竹島委員	<p>本日は、本当にありがとうございます。こちらの市町村からの聴き取り内容ということで、市長さんが山田高校をモデルにしたらいとか、そういうことをちょっと言われているんですけども。</p> <p>私から見て、この城山高校っていうので、インパクトっていうか、今、福祉を主にやっていらっしゃるということなんですけれども、もう少しテレビとか新聞とかを利用して、人数は決して減っているわけではないんですけども、何かこう、もう少し高知県民に対してアピールするとか、そういうのはあまりなさっていないんでしょうか。</p>
香南市 教育委員	<p>私は校友会の者でございますので、学校として、いろんなことは考えておいでいるとは思いますが、私が十分にその点は把握しておりません。</p>

竹島委員	<p>決して人数は減っているわけではないので、もう少しこう、城山高校っというのをアピールするために、どういったことをもう少し福祉以外で行うか。</p> <p>今、部活動とかもおっしゃっていましたがけれども、人数的なことで、野球とかサッカーとか、そういう人数がいる部活動は厳しいでしょうか。</p>
香南市 教育委員	<p>現状では、サッカー一部、それからバスケット部、写真部とか、そういったものやっております。それで、少人数のものについては成り立つんですけども、多くの人数を要するものは成り立ちにくいといったような状況があらうかと思えます。</p> <p>それから、学校の活動として、先ほど言いました絵金歌舞伎以外にも、芸能活動をやったらどうかといったような、そういった声もあるわけですがけれども、実際に学校の現状と、生徒の希望といったようなものとは、どのようにかみ合っていくのか、そこは私は、まだよう把握をいたしておりません。</p>
竹島委員	<p>生徒さんは、おとなしいイメージなんでしょうか。</p>
香南市 教育委員	<p>以前にはなかなか活発な子もおりましたけれども、最近はおとなしいというか、非常に真面目になってきたという感じです。でも、体育祭などは、活発で、すばらしいものを見せていただいております。</p>
竹島委員	<p>私も卒業式へ一度行かせてもらったぐらいなので、ぜひ学校の方も訪問させていただきたいと思えます。</p>
平田委員	<p>ご丁寧なご説明ありがとうございました。</p> <p>私は質問ではないんですけれども、それこそ昨年度になりますが、城山高校の卒業式へ参加させていただきまして、生徒さんの姿を見ました時に、大変礼儀正しく、静かな雰囲気の中で卒業式を迎えられたということが、印象に残っております。</p> <p>これも、同窓会長さんのお話にもございましたが、そういう方々の熱意ある母校を思う気持ち、そのことが大事だとつくづく思いましたので、ぜひとも城山高校の振興策につきまして、また同窓会等も含めて、地域も含めて、今後どういうふうになれば、ますます学校の活性化につながるのかをご検討いただきたいと思います。</p> <p>入学者も、昨年より今年は増えておりますし、また次年度の入試では、とにかくたくさん生徒が入学するように、ご支援をいただけたらよいと思えますので、お話を聞かせていただきました。</p>
田村教育長	<p>それでは、大体よろしいでしょうか。</p>
各委員	<p>構いません。</p>

田村教育長	今の学校が頑張っているところに、さらに部活動が活性化し、絵金歌舞伎とのコラボとか、そういったことも考えてはどうかというようなお話しをいただいたと思います。どうもありがとうございました。
-------	--

イ 香美市

田村教育長	それでは続きまして、香美市の法光院市長様の方から、ご意見をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。
香美市長	<p>どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>私だけでは少し心もとないので、隣には時久教育長に座っていただきましたので、よろしくお願いいたします。</p> <p>本当に大事な内容なので、少し長くなりますが、文章で読み上げさせていただきます。</p> <p>本日は、人づくり、つまり教育によるまちづくりを進めるに当たって、山田高校を、探究的な学びの学校、高知工科大学の連携校として位置付け、東部地域の高校教育の改革、振興に、県教育委員会と共に取り組んでいきたいという趣旨で、提案をさせていただきます。</p> <p>香美市の実態や取組を例に提案をさせていただきますが、地域を担う人材育成を進めるために、この提案は、物部川流域3市はもとより、山田高校で学ぶ全ての生徒にとって、希望が膨らむものだというふうに考えております。</p> <p>本市は、保育所、幼稚園から大学まであるまちとして、学びの連続性を大切にしながら、「まちづくりは人づくり」という考えのもと、教育を中心に据えたまちづくりを目指してまいりました。</p> <p>その過程で、市民一体となって取り組む、「よってたかって教育」、もっと詳しく言いますと、「よってたかって地域が育てる教育」ということ、そういう概念が生まれ、コミュニティ・スクールや地域協働本部の設置、探究型学習、自ら学び自ら考える力の育成を図る学習ということでございますけれども、探究型学習による学力向上への取組、高知工科大学との連携など、市民、行政が一体となって、学校教育の向上、生涯学び続けるまちづくりを進めております。</p> <p>市内の小中学校では、探究型教育をはじめとする様々な取組を通じて、学力が向上しており、各校ではさらに高いレベルの教育を目指し、意欲的に取り組んでいるところでございます。</p> <p>本市の、人づくりによるまちづくりを推進するに当たって、現在、山田高校が、生徒の人間力を高める探究型学習を力強く進めていること、学力向上に力を注いでいることは、このうえなく貴重で、本市発展の希望であると考えております。</p> <p>生徒たちが、学校から地域へと学習の場を広げ、商工会、企業、地域の人たちと深く関わりながら学習している姿や、南国市、香南市、香美市、3市への提言を行う姿、小中学校に向いて子どもたちをサポートする姿など、日常的に見られています。地域の方たちが、山田高校に元気をもらっている、そういう状況がございます。</p> <p>学力向上に力を注ぎ、国公立大学等への進学率が向上してきたことも、</p>

ともに喜んでおるところでございます。

また、高知工科大学は、本来、探究的な学びによる研究・学習を進めている、最高の教育機関でございます。現在、高知工科大学との連携は次第に進み、小・中・高等学校との総合連携を行っていますが、身近にある「知」の拠点ですので、これらのまちづくりを担う人材育成には、大いに力を借りたいと考えております。

香美市には、保育・幼稚から大学まで、また特別支援学校まであり、全ての校種が揃った学園都市です。探究的な学び、高知工科大学との連携を、学園都市として貫くキーワードとして位置付け、これからの社会を力強くつくっていく、人づくりをしていきたいというふうに思っております。

しかしながら、学園都市としての、教育の一貫した積み上げを行うに当たって、大きな課題があります。市内の児童生徒は、中学校、高等学校進学の際、香美市を離れる傾向が強く、山田高校が様々な取組を充実させているにもかかわらず、地域からの進学が低いことは課題であります。

山田高校の魅力ある取組と、地域からの進学があつてこそ、保育・幼稚から大学までの一貫した教育が実を結ぶと考えております。そのため、子どもたち、保護者、地域の人たちにとって、山田高校が明らかに変化、充実したことが分かる施策が必要だと考えております。

そこで、平成 31 年度からの、県立高等学校再編振興計画「後期実施計画」に対して、高等学校教育振興の観点で、山田高校を探究型、高知工科大学との連携型の高校にすることを提案するものであります。

一つは、探究型教育の特色が明確に伝わる科やコースの新設、教育課程編成の工夫を提案をいたします。

2つ目には、高知工科大学との連携の特色が伝わるような、指定事業等を行っていただき、特色を明確に示すことができる学校づくりを提案をいたします。高知工科大学との連携を強めることで、高知工科大学の特色を活かした探究型学習を生むことができます。

また、特色のある教育を進める東部地域の拠点校として、新しい教育を発信し、県の高校全体のレベルアップにつながると考えます。さらには、山田高校が光ることで中学生への強い刺激となり、学力向上が大いに期待できます。

このことは、教育の高知市一極集中の緩和や、高校生の県内大学への進学率向上にもつながります。

小中学校において、探究型教育で学んだ子どもたちが、円滑な接続のなかで、探究的に学習を深めることができることを期待いたします。

この施策は、地域の担い手となる人材の育成、郷土で志を持つ人材を育成し、子育て世代の安全・安心感や、質の高い教育を提供し、課題となっている人の流れに、一石を投じることができると確信をいたしており、さらには、このことが人口減少、教育力の向上など、高知県の課題解決につながると考えております。

初めにも申しましたとおり、地域を担う人材育成を目指しての提案は、物部川流域3市はもとより、山田高校で学ぶ全ての生徒にとって、自信と誇りが高まるものだと考えております。

山田高校の改革は、全ての要（かなめ）です。山田高校の探究型、高知工科大学との連携型への学校改革について、ぜひともご理解、ご協力をお

<p>田村教育長</p>	<p>願いいたします。以上でございます。</p> <p>どうもありがとうございました。大変具体的なご提言で、東部地域の拠点校として山田高校を活性化していく。そのためには、探究型あるいは高知工科大学との連携型、そういった高校づくりを進めるべきだと、そのようなご意見であったかと思えます。</p> <p>それでは、委員の皆さんの方からご質問、ご意見ございましたら、お願いいたします。</p>
<p>木村委員</p>	<p>先ほど、市長様からお話をお伺いしたなかで、特に、まさにそうだなと思ったお言葉が、「よってたかって地域が育てる教育」と。これは、まさに高知弁ですけども、地域と学校をうまく連携させているという、一つの大きな見本じゃないかというように思います。</p> <p>今日実は、山田高校を訪問させていただき、子どもたちからプレゼンもしていただいて、多大な感銘を受けております。</p> <p>特に私は、経済界から教育委員会へ入っているものですから、一番印象に残ったのは、就職をされている子どもさんたちの、ほとんど全てが、企業から求められて企業に入られていること。要するに、企業に求められる子どもを育て上げられているというところが、本当にすばらしいなというふうに思いました。</p> <p>進学される子どもも、やがて、いつかはどこかへ就職するわけですが、その子どもたちが、企業に求められる子どもとなるかどうかというのが、本当に一番、要の視点であるというふうに、私は考えております。</p> <p>高校を出て就職する山田高校の子どもたちが、就職試験を受けるのではなくて、企業から来てほしいと言われて入るところが、もうまさに、範となるところではないかなというふうに思います。</p> <p>この探究型の学習は、もうすでにずいぶん進んでいるんじゃないかというふうに拝見しましたが、ぜひさらに進めて行っていただいて、働く場所で役に立つ人材を育てあげるという視点で、そして地域に戻っていただくというような視点で、ぜひお進みいただきたいというふうに思いました。</p>
<p>八田委員</p>	<p>どうもありがとうございました。私も今日、訪問させていただきました。また、普段から色々と山田高校とは関係があります。</p> <p>香美学園都市構想という言葉があって、その構想に基づいて、その構想のコアになるところが探究型学習で、それは先ほどもあったように、かなりもう実態ができています。</p> <p>それで、山田高校校長、それから時久教育長なんかも、本当に意欲的に取り組まれていて、実態としていろんなことが、もう変わってきていて、他の学校の生徒とは明らかに違った生徒が、しっかりと育ってきている。さらにそれを発展させる意味で、高知工科大学との連携をもっと充実させていく、これはもう、ぜひやっていきたいと思えます。</p> <p>もう一方で、中学生のかなりの部分が高知・南国市内に抜けてしまっているという問題に関しては、香美市の皆さんの意識が大きく変わる何かきっかけが要るのかなという気がしています。それは例えば、今、構想って言っているものが、もう構想ではなくて実態だという何か、宣言であった</p>

	<p>り、それから何か、看板なのかなという気がします。</p> <p>例えば、香美学園都市の山田高校であるとか、何か変わったぞと市民に訴える機会を設けることで、少しずつ、実態はもう変わってきているので、そこに何か意識を向けさせることをすれば、もう一步、ぐっと行けるのかなという気がします。</p> <p>何かその辺りが、今後のビジョンというか構想として、今こう、言われているんですけど、もうすでに構想ではなくて、かなり具現化してきているので、何か次のステップとして、宣言だとか、実態化したと思わせるような、何か手段があるといいなと思いますが、何かそういうのはありませんか。</p> <p>今、小学校、中学校も探究型で段々進めてきて、学校の荒れた時代もあったけども、今は非常に落ち着いてきて、学力は上がってきています。上がってきた学力の、そして探究型で頑張ってきた子どもたちの受け皿は、はて、外なのか内なのか、地元なのかっていうところなんですね。</p> <p>だから、しっかり育てた子どもたちが、地域で学べるような環境がなければ、これは我々としても、努力が足りないだろうというように思っています。</p> <p>ですから、しっかり、地域の方々にも、「山田高校、おっ、いいぞ」と、こう思っただけのような状況にならないかなと思いますので、今非常に頑張っただけだと思いますけれども、まだ看板をあげるためには、なかなか重たいところがあるかとも思っています。それは勝手に看板をあげるわけにいかないということです。</p> <p>ですから、そのために私たちは、教育関係の皆さんが全部集まって、山田高校でひとつ、これからのまちの教育を考えようと、いうふうな大きな取組を進めようということで、取り組みさせていただいています。</p> <p>皆さんが、もっともっと、山田高校に関心を持っていただくというふうな形で、山田高校が、その要に座っていただかなきゃいけないだろうと思っていますので、まちをあげて、保育から小中学校、みんな集まっただいて、そこで、山田高校に私たちの進む方向を宣言していきたいというふうに思っています。</p> <p>それが一つ、大きな看板になってほしいと思っています。</p>
八田委員	<p>山田高校の生徒は、本当に元気で楽しそうなので、生徒が山田のまちをいろんなことで活用しているのは、必ず印象にあると思います。「山田高校は楽しそう」というのは、すごく大事なポイントだと思うので、ぜひ、それをさらに励ますように、市の方でも応援していただきたらと思います。</p>
香美市長	<p>行政として、できることは精一杯、やっていきたいというように思っていますので、高校生の通学についても、来年の4月から、かなり思い切った応援をさせていただこうというふうに思っております。</p> <p>木村委員さんが言われたように、企業と生徒たちがつながっている様子を、2回ほどコマーシャルを作っただけ、私たちも目の前で見せられました。そのコマーシャルを作るためには企業に入って、企業のことをしっかり聞いていくわけですね。</p>

	<p>そうすると、子どもたちがやはり、いっぱい話を聴いて、分かった内容でつくる。そして誇りを持って仕事をされている人たちの話を聴いて、自分もそこへ勤めたいとなるわけです。</p> <p>企業の方にも聞くと、「あの子を採りたい」と言うんですね。本当にうまくピタリといくような、そういうことが行われているので、もっと大きくやっていきたいと思っています。この活動を通じて子どもたちが成長をしていて、商業科の生徒たちも、本当に立派にこの説明もしてくれます。</p> <p>だからこそ、その子どもたちがもっと勉強をする機会をつくって、もっと知識を付けたら、もっと活躍ができる、そんな思いがします。やはり、山田高校から大学へつなげていきたいと思うのです。</p> <p>今は毎年、国公立大学への進学数が上がってきて、3年間ずっと上がってきていますけども、そのテンポではなくて、どーんと、高知工科大学へ40人、50人行くような高校にしなきゃいけないと、そういうふうな思いなんです。そういう形でこそ、本当の連携だというように思いますので、そこまで実現をしたい、それを夢でなしに実現させたいと思っています。</p>
竹島委員	<p>時久教育長、山田高校の校長、本当に女性のリーダーが頑張っている地域だと思います。</p> <p>土佐山田自体も、地震にも強い地域だということで、これからも人数は増えます。山田高校の生徒も頑張っているって、本当にいいことづくめだと思うのですが、その割には、定員割れになってしまう。これだけ頑張っているのに、やはり定員割れしているってことで、結果、高知市や南国市内に流れて行く生徒を、なんとか山田で止める。そういうことが絶対できると思います。</p> <p>あと、今日学校を訪問した際に、陸上部の監督とも話をしたんですけども、「実は陸上部も人数は減っているんだよ」ということで、やはり文武両道、陸上部はもう何十年も有名ですけど、もう一つ二つ、クラブ活動で頑張ってもらって、中学校と連携していただきたい。それは運動部だけではなくて、文化部もあると思います。</p> <p>そういったことで、入学者の人数をもう少し増やしてもらって、定員オーバーになることを期待しておりますので、ぜひ頑張ってくださいと思います。</p>
平田委員	<p>ご説明いただきましてありがとうございました。</p> <p>私も本当に、山田高校の頑張りは報道関係を通じて、知っておりました。それと、個人的には、山田高校を見ました時には、やはり小中高大の連携をする学校だなと思っております。</p> <p>この名称は、今日私、初めて知ったんですけど、「香美市学園都市構想」、こういうビジョンを持って、地域の教育を高めようとしているのは、本当に素晴らしいと思いました。ぜひ、この構想を実のあるものにしていただきたいというふうに思いました。</p> <p>それと、他の教育委員さんと同じように、私も今日、事前に学校へ行きまして、生徒さんの発表を色々聞かせていただきました。その時にすごく感じたのは、全ての発表が地域というものを頭に入れて、生徒たちが発表をされていました。</p>

<p>中橋委員</p>	<p>そのキーワードが、地域に貢献するとか、地域を活性化するとか、地域を元気にするとか、地域に笑顔というような表現で、最後には、地域から高知県の活性化というふうな発表もありました。</p> <p>地域とこんなに連携している山田高校っていうのは、大変すばらしい取組をしていただいていると思いました。</p> <p>ぜひ地域を、活動を通して、香美市の学園都市構想を現実のものに結んでいけば、山田高校の振興策に結び付いていくだろうと思います。</p> <p>地域の進学率が低いという、このデータが改善されるように、私たちも応援できたらというふうに、お話を聴かせていただきました。</p> <p>もう言い尽くされたようなところがあると思うんですけども、地域との結び付きっていう観点のなかで、やはり地域自体が活性化しないと、生徒も集まって来ない。香美市自体が元気なまちで、香美市に行きたいという気持ちがあれば、今度は生徒たちも集まるのかなというのは感じるころです。</p> <p>香美市自体の、市としての活性化としては、どういうことを考えられているのか、せっかく市長さんがいらっしゃっているので、お聞きいただけますでしょうか。</p>
<p>香美市長</p>	<p>まず、時代を担う子どもたちのことを、しっかり考えるということが大事だと思うんですね。次の時代を担う若い人たちに対して、今、教育の環境について、しっかり整備をしていこうという話をさせていただいているのは、この未来を担う子どもたちを、しっかり育てる教育ができる環境を築かないと、私たちが未来を語ることはできないというふうに思うんです。</p> <p>多感な子どもの時代、中学や高校の時代を、やっぱりそのまちで過ごす。そして地域としっかり結び付いて、将来を考えてやっていく人たちは、地域を離れても、必ず地域のことを頭に置いて、世界で頑張ってくださいというふうに思っているんです。</p> <p>ですから、今このまちを元気にしていくためには、子どもたちがしっかり学べる環境を、地域で学べる環境をつくっていかなければいけない。大学まであるまちですから、大学まで行けるような環境を、しっかりつくっていくことが大事だというふうに思っています。</p> <p>そして私たちも、地域については、地域の人たちが、みんなが力を合わせてやることを、逆に子どもたちから、生徒たちから学び取っているような状況が今あります。</p> <p>それは、商工会の皆さんであったり、企業の皆さんであったりしていますけれども、この生徒たちのエネルギーとか、頑張りとか、地域に対する本当に率直な想いというのが、伝わってきています。</p> <p>それはもう、小学校や中学校の子どもたちも、子ども会議を開いて、このまちをどう良くしたらいいだろうかという話をしたり、キャリアチャレンジデイに参加をして、自分の仕事観といったものを育てたりしていますので、そういうところからできていくんだろうというふうに思っておりますので、とにかく、人づくりはまちづくりなんだっていうことをやってまいります。</p> <p>今、私たちは、どういう人が欲しいのかというと、ものづくりをしか</p>

	<p>り頑張ってくれる人、そういう人です。価値をつくる、新しい価値を生み出す、そういう人材をつくっていく。これでない、物事は大きく広がっていかないだろうと。ものづくりをするまちにならなければいけない、ということで、市民の皆さんに参加をいただいて、「ものづくり会議」を立ち上げています。</p> <p>そのなかに、ものづくりは人づくり、人づくりはまちづくりという話が、必ず出てまいります。ですから、ものづくりの次に、人づくりということで絡めてやっておるところで、そこにはやはり、教育が一番大事だというように思っております。</p>
田村教育長	<p>私から一つだけ質問させてください。高知工科大学との連携ということ、強化していくという方向性を、お話しいただいたんですけども、今日お話を聴くと、今でも相当、高知工科大学と連携をやっていると、いうことだと思うんですけども、そこを指定事業というようなお話がありましたが、そのイメージは、どういうふうなイメージでしょうか。さらに強化する具体的な中身を考えているのでしょうか。</p> <p>例えば、高知工科大学への進学卒を、大学と話をしたうえで、あらかじめ設定するとか、そういうようなイメージなのか。さらに強化するということの具体的なイメージを、教えていただきたらと思います。</p>
香美市長	<p>まず子どもたちが、この山田高校に進学をしたいと思えるようなものというのは、今進めてきた探究型の延長のものが、山田高校にあるということが大事だと思っています。自らが切り拓いてやっていく教育を、小学校、中学校と続けてやってきていますので、このことが、受け皿がちゃんと、山田高校にあるということが大事だと思っています。</p> <p>それともう一つは、今言った、将来はどうなるんだと。だから、私が言ったように、40人、50人、そういう生徒たちが地元の高知工科大学に行くぞと。高知工科大学へ行く道になるというような、高校にならなきゃいけないと思っています。</p> <p>もしかしたら、高知工科大学が山田高校を附属にしたいと思うような、そういうふうな高校に発展しなきゃいけないというように思っています。</p> <p>ですから、そのためには、どんなことができるのか。これはもう本当に、よってたかって知恵を絞っていききたいなというように思っています。</p>
田村教育長	<p>ありがとうございます。探究型の学習を、探究型コースとかいうことも含めて、そういったものを強化すること。それと高知工科大学と密接に結び付いていくと、そんなようなイメージでしょうか。</p>
香美市長	<p>そうです。</p>
田村教育長	<p>その他、ございませんか。</p>
各委員	<p>構いません。</p>
田村教育長	<p>それでは、どうも大変ありがとうございました。</p>

ウ 南国市

田村教育長	<p>それでは、続きまして、南国市の大野教育長様の方から、お話をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
南国市 教育長	<p>本日、市長は公務がありまして、こちらに参ることができませんので、私の方から南国市について述べさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>まず、南国市でございますが、2005年、平成17年に、人口が5万人を突破しまして、高知県第二の市として、5万人を超えたんですが、2007年、平成19年から、人口減少傾向となりまして、2010年、平成22年には、5万人を切りまして、4万9千台ということになってまいりまして、本年、平成29年度は4万8千というところでございまして、減少傾向でございます。</p> <p>そこで、市長以下、やはりこの人口を確保するというところで、昨年度、平成28年度～平成37年度までの10年間、南国市の将来像をきちっと描いた「第4次南国市総合計画」に基づきまして、人口の確保、若い方々が住める、いわゆる子育てができる、そういう市を確保しようということで、5つの基本目標を掲げて取り組んでおるところでございます。</p> <p>特に、働き場所を確保するための企業誘致と、それから、県からの住宅建設等、都市開発の権限移譲をお願いし、そして、高知大学医学部周辺の再開発と充実ということで、南国市のいわゆる人口確保。南国市は大学も、高知大学医学部、高知大学農学部、高知高専ということで揃っていますので、その活用を今後も図っていきたくて考えております。</p> <p>そこで、その底辺になるのが、私、南国市で元中学校教員として、32年間、中学校教諭、教頭、校長と務めさせていただいたわけですが、本当に南国市は3つの高校、高知農業高校、高知東工業高校、岡豊高校とありまして、それぞれ、農業、工業、普通ということで、私が現役の教諭時代から、本当に南国市の子どもたちは恵まれているなど、そんな思いでずっと過ごさせていただきました。</p> <p>ただ、南国市のそういう人口減少と同時に、南国市の教育行政におきましても、市長との総合教育会議のなかで、輝く明日への人づくりということで、教育は人づくりであるという視点に立ちまして、「南国市教育振興基本計画」を「高知県教育振興基本計画」を参酌し、基にしまして、つくって取り組んでいるところでございます。</p> <p>特に、学力向上と人権教育を基盤とした生徒指導ということで、自尊感情を育み、豊かな心をつくっていこうということで取り組んでおります。</p> <p>ただ、南国市は県の状況を、あるいは、大きく言うと日本の状況をも反映しているような状況がありまして、小学校が13校、中学校が4校と希望が丘学園（北陵中学校希望が丘分校）で、分校が1校ございます。</p> <p>その中で特に、小学校13校の中には、教育委員の皆様方にも実態を知っていただくために、もうご承知だと思うんですが、大篠小学校は県内一の児童数でございます。それから、香長中学校が県内一の生徒数でございます。</p> <p>県内一の小学校と中学校がございまして、実は中山間にございまして、奈路小学校と白木谷小学校がございまして、奈路小学校は全校生徒が30名、</p>

しかも3分の2が、特認校で来てくださっておると。

この特認校制度というのは、平成12年度から実施していますが、3分の2の方が、南国市の他の学校から、いわゆる人数の少ない中山間の学校の、きめの細かい学校で授業を受けたい、勉強をしたい、自然豊かな所であるところで、奈路小学校が30名、白木谷小学校は26名でございます。

両方ともに3分の2が特認校による子どもで、3分の1が地元の子どものこととございますが、前市長、現市長も、中山間を絶対守るということで取り組んでくれておりまして、南国市の小学校の給食米は、全て中山間米を使うということで、中山間の維持にも努めているところでございます。

そのような中で、今般の県教育委員会のこの「再編振興計画」。前期と今度は後期なんです、実は南国市もそういう状況でございますので、将来、10年先を見通した時には、再編振興ということも避けて通れない、そういう時期が来るということで、今回のこういう再編振興の県教育委員会のお取組をぜひ参考にさせていただいて、早い段階から準備に入っていきたい、そんなふうを考えているところでございます。

特に、3つの高校につきましては、平素から本当に、各小学校・中学校の教育実践にご支援、ご協力をいただいておりますので、本当にありがたいところでございます。

特に高知農業高校には、現在6学科で子どもたちを受け入れていただいておりますが、以前、私が若いころから比べましたら、6学科ともに、2年生から全学科でAコースは専門コース、いわゆる後継者、就職等の養成、Bコースは進学コースであるということで、非常に丁寧なお取組をいただいております。

特に、農業の近代化ということにつきましては、その勉強と農業の担い手、後継者の育成、自営業等に関するお取組をいただいて、生活総合科、食品ビジネス科等では、農業関連産業に従事しようという子どもたちが頑張っております、大変充実した農業高校であるというふうに、感謝いたしております。

南国市教育委員会としましては、食育というのが一つの大きな柱立てでございますので、食育、食の教育の指導などで、ご支援に賜っているということです。特に、学校給食につきましては、一緒にみそ作り体験、それからお茶の提供等も含めまして、本当にお取組をいただいております。

市民への高知農業高校からの提供という意味では、今年で14年目になるとお聞きしているんですが、年に6回、「高農ふれあい市」というのを開催されておまして、野菜、果樹、草花、肉、ソーセージ等の販売を行っていただいております、もう市民が、この日を待ちかねて押し寄せるといような状況で、市民のためにも開催して下さって、本当に感謝しております。

ただ一つ、またご検討をいただきたい、私からの要望といたしましては、もう今は、植物バイオ、動物バイオ、いわゆる農業の技術というのは、本当に進歩しております、学力、勉強するということの必要性がございますが、私が教諭の時にも、農業の大きな農家の子どもさんが、どうしても学力的に、これは私どもの指導、学力を付けられなかったということは、一つ大きな、私どもも反省でございますけれども、できましたら、そういう農業

の後継者、担い手、これは畜産も含めてでございますけれども、そういう方に対しては、ぜひ何らかの配慮をしていただけたら、ありがたいなと思っております。

「後を継いで絶対やりたいけど」、という子どもたちに対して、もう少し門戸を広げていただけたらありがたいというのが、私の現役の教諭の時からのご想いでございます。

ほとんどは入学させていただき、育てていただいたんですが、ぜひ農業の担い手、後継者、今は少なくなってきていますので、ぜひその面でも、畜産も含め、林業、土木等も含めて、後継者という面で、さらに充実した取組ができますように、私どももきちっと、進学ができるようには取り組んでまいりたいと、そんなふう考えております。

それから、高知東工業高校でございますが、同じく、本当に感謝をしておるところでございます。

現在、全日制が4学科ございまして、南国市内の工業生産関連会社へ、たくさん子どもたちが就職しております。皆様もよくご存じの株式会社垣内とか、栄光工業とか、本当に優秀な企業に、高知東工業高校の卒業生が入っております、4学科で育てていただいた子どもたちが、本当に頑張ってくれていますことに、心から感謝を申し上げたいと思います。

3年前に理工学科が廃止されまして、いわゆる進学コースのための理工学科だったんですが、それはなくなりましたけども、4学科の中から進学もしていますし、もう一つ、中学校の段階で高知高専を受験する子どもたちが増えました。これは、理工学科がなくなった一つの方向性として、子どもたちが高専を受けだしたと、人数が多くなったという実態もございしますので、ご報告をさせていただきたいと思っております。

ただ、今まで、高知東工業全日制に行っていた子どもたちについては、本当にたくさんお受け取りをいただいております、本当に感謝しております。

南国市教育委員会としましては、実は、小学生を対象に発明クラブというのをやっております。これに対しましても、指導者として高知東工業高校の先生方が入ってくださっておりますし、夏休み子ども教室にも、指導者として先生方が、本当に人数を何人も出してくださって、子どもたちの夏休み教室を支えてくださっております。

また、企業と連携して、垣内ロボット選手権、垣内機械の前会長さんの方から、からくり創造工房という工場までも寄付していただいて、全面的なご支援をいただいております。その中で、ロボットの製作教室もやっております。これは、ICを組み合わせて、いわゆるリモコンで動かす、コンピュータで動かすと、そのような大会も開催できるようになっております。

いろんな面で、高知東工業高校さんにも全面的なご支援をいただいております。ところでして、特に小学校、中学校には、出前授業でも学校現場に入らせていただいております、感謝をしております。

それから、定時制でございますが、私も卒業式に出させていただいた時に、市長等と交代で3校を回らせていただいて、卒業式に出させていただくんですが、高知東工業高校は、全日制の卒業生と定時制の卒業生が答辞を読まれます。

もう定時制、もちろん全日制も素晴らしいんですが、定時制の、あの働きながら、苦しい3年間を、中には4年間を、本当にやり抜いてきた生徒さんの、あの想いということを受け止めて、保護者も私も涙ということが、本当にずっとございます。

今後の要望としましては、どうぞ、厳しい状況のなかで働きながら学ぶ、定時制というようなこと存在、これについて、さらにお力添えをいただけたらというふうに思いますので、定時制についても、ぜひ今以上に、よろしく願いいたします。

もう一つの、普通科の岡豊高校でございますが、普通高校のなかに体育コース、芸術コースというのがございまして、3年間、専門的なコースで学べることができるとなっております。しかも芸術コースは、音楽コース、美術コース、書道コースと、それぞれの専門を生かすことができるということで、それぞれの専門コースへの進学ということもできております。

2・3年生については、それ以外の普通科では、理系、そして文系、文系は特に、国公立大学の文系Ⅰと私立大学系の文系Ⅱに分かれて、きめ細かくご指導していただいておりますし、また商業を目指して就職、あるいは短大等に希望する子どもは、ビジネス系のコースを選ぶことができます。

それから、家政系の大学とか短大、専門学校へ行きたい生徒は、生活文化系を選ぶことができるということで、普通科ではございますが、本当に総合的な、子どもたちの希望に沿ったコースを保障できるように、お取組をいただいておりますし、南国市の子どもたち、幸せに、本当に頑張ったら、その夢を叶えていただけるというところで、感謝をしているところでございます。

さらに、運動部・文化部ともに、もう皆様もご存知のように、全国に誇れる素晴らしい活動をしてきておりまして、一つの例として、吹奏楽部がよく、小学校、中学校へ演奏に来てくださいます。あの吹奏楽部の演奏を聴いて、「私、岡豊高校へ行って吹奏楽部へ入る」という子どもが、出てきております。

そのようなことで、ものすごく、小学校、中学校の文化祭とか記念行事とか、そこへ吹奏楽部が、頻繁においでしてくれていますし、美術・書道コースの方々も学校への出前ということで、特に対応してくださっておりますし、非常に感謝しているところでございます。

どうぞ、3校につきましては、そういうことで南国市にとりましては、本当にありがたいことございまして、3校へつないだ後、今申しました、南国市にも大学がありますし、それぞれのコースによって、それぞれの願う道へ進学できるようになっていきますので、小中学校でしっかりした学力を付けて、それぞれ希望する学科へ進学してもらえればと思っています。

南国市の教育委員会の出口でございますが、南国市の教育行政の出口は、15歳。いわゆる義務教育を終える段階で、子どもたちが自分の気力、体力、学力で、自分の進路を自分の力でつかむことができる、そういう子どもを送り出そう。そういう子どもに育てていこうというのは、南国市の教育行政の出口でございます。

そういう面で、さらに地道に努力をしてまいりたいと思っておりますので、今後どうぞよろしくお願い申し上げます。以上でございます。

田村教育長	<p>ありがとうございました。基本的に南国市にある県立高校3校を、それぞれ充実をしてもらいたいと、そういう趣旨であったかと思います。</p>
八田委員	<p>色々詳しい情報をありがとうございました。</p> <p>最後にご紹介いただいた岡豊高校は、実は岡豊高校も、県内で最大の規模ということで、県内最大の小、中、高があるという、特徴あるところかと思えます。</p> <p>それで、岡豊高校はマンモス校としての何か強みがあって、部活動が非常に活発で、おそらく、そのことが生徒にとって非常に魅力的になっていて、ずっと、ほぼ定員を充足してきているのだと思います。</p> <p>それに対して、高知農業高校は、学科にもよるんですけども、なかなか定員を埋めることができてない学科もずっとありますし、高知東工業高校についても実は、定員は十分充足してないという状況です。</p> <p>南国市の場合には、地の利といいますか、高知市内へも非常に通いやすいので、南国市の生徒さんにとっては、非常に選択肢が広い、非常にそういう、恵まれていると思うんですね。</p> <p>そういうことからすると、現状では、再編とかっていうことを、考えなければいけないレベルではないのかもしれないけれども、将来的には、例えば、農業とか工業というのは、どんなふうにしていったらいいんだろうかということは、考えなければいけないと思うんですね。</p> <p>それで、教育長から見て、子どもたちの希望、子どもたちが学びたいと思っていることと、必ずしも合致していないというのが、結局、定員が十分埋まっていないということだと思っんですね。</p> <p>その辺を、高知市内校との棲み分けであるとか、そういうことも含めて、今後、考えていこうとすると、例えば、高知農業高校、高知東工業高校について、どんなふうこれから考えていくべきか、もし教育長から何かあれば、お願いできませんでしょうか。</p>
南国市教育長	<p>中学校の教諭として、一番考えないといけないのが、子どもたちが将来、大人になった時に、どういうふうに社会に役立つ人間になっていくのか。そういう視点で、進路指導はしていかないといけないわけでございます。</p> <p>もし、高知東工業高校さんが高知工業さんへ、いわゆる再編されるとかということになったら、子どもたちが、地元の高知東工業高校がなくなるわけですから、高知工業高校へ行くしかないという状況になります。</p> <p>また、科も同じものがありますけれども、やはり高知東工業高校さんには高知東工業高校さんとしての、特色ある科の運営をされているわけでございますので、高知工業高校さんのその科と比べて、子どもたちが選択していくわけでございますので、高知東工業高校さんの存在という価値は、ものすごく大きいと思われるので、ぜひ南国市に、今の状態で続けていたいただきたいと思えます。</p> <p>高知農業高校さんは、もう絶対に農業後継者育成ということで、これも絶対なくしてはならないという思いでございます。</p> <p>この香長平野の、いわゆる高知県で一番肥沃な土地、この土地で農業後継者を育てていく、育てていく。農業をやはり育てていくということにおいては、これも縮小したり、科を少なくしたりということのないように、</p>

	<p>現在のままで、子どもたちのそういう進路や夢を叶える、そういう場を県立高校として、ぜひ設置しておいていただきたいというふうに思いますので、どうぞご理解のほど、よろしくお願いいたします。</p>
八田委員	<p>ありがとうございます。われわれもぜひ、全ての学校を存続させたいという想い、そのままなんですけども、ただ現実には、とにかく定員をなんとか埋めていきたい、埋めていかなければいけないということもあって、その学科の見直しであるとか、あるいは今までにない、新しい分野の学科をつくっていくとか、何かそういうことをしていけないと、ただ頑張っただけで存続するのは難しいのかなということがあります。</p> <p>そういうところで、例えば、高知東工業高校として、特色を出すにはどうしたらいいか、高知農業高校が、もっと中学校の生徒からして、魅力的に見えるためにはどうしていったらいいのかと。高知農業高校もいろいろとまちで活躍されているので、中学校の生徒も、それから一般の市民の方も、よく見る機会はあるのですが、そこに生徒が憧れてくれないと、結果として進学者は増えてきません。</p> <p>その辺りに何か、また教えていただけることがあれば、非常にありがたいと思います。</p>
南国市教育長	<p>今の段階で、私の方で、こんな企画をというのを、まだよく考えてなくて、逆に今の存在の在り方に対する、感謝の気持ちがいっぱいでございますけれど、今、委員さんがおっしゃられましたように、時代は流れていますので、世の中が、社会が要求するものが変わってくると思いますので、科の存続ということの中身の在り方ということについては、その時代の流れに即した必要なものを、やはり設置していかなければならないということは、よく分かりますし、私どももそういう面で、先見の明をもって、高等学校様との連携というものをやっていかななくてはならない、そのように感じておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
木村委員	<p>高知農業高校について、分かる範囲で構わないのですが、約3割～4割の方が就職をされているということで、地元の農家として就職されているのか、どういった所で就職されているのか。資料によると、65%ぐらいの生徒さんしか、希望している所に行っていないというふうにあります。どういった所へ就職されているのかというところをお聞きしたい。</p> <p>もう1点は、同じ南国市に高知大学の農学部がありますね。そこで、同じ農業を学ぶ学校、まあ多少は違うかも知れませんが、そういった大学と高校との連携というものが、どのような形で行われているのかということ、もしお分かりでしたら、お教えいただきたいと思います。</p>
南国市教育長	<p>大変申し訳ないですけども、私がそれをよく把握しておりません。ただ、高知農業高校で学んだことで、私の教え子たちも、食品化学科へ行った子どもは、いわゆる日本ハムとか、いろんな所のそういう食品の工場系へ就職していますし、それから畜産科は、自分の所で畜産に携わっていますし、昔は農業経営科と言っていたんですが、農業へ行ったりしている。園芸を出た子どもは、みかんとか園芸とか。そういうものに入っておりますの</p>

	<p>で、結構昔は、いわゆる自営の子どもたちが多くおりました。</p> <p>ただ今は、農業後継者というのは少なくなってきておりますので、南国市なんかも、もう今ニュースで出ていますけど、圃場整備、国がやるこの圃場整備で、今やらないと絶対できないということで、前市長さんも税金を、個人の負担分まで税金をつぎ込んで、今、このいい土地を、田んぼを、確保して農業がやれるように、継続していけるようにしたいということで取り組んでおります。この香長平野の肥沃な農業の土地を確保していきたいということで取り組んでおります。</p> <p>すみません、ご質問の就職先とか、その資料を私がよく確認をしましていませんでしたので、申し訳ございません。</p>
平田委員	<p>県立高等学校3校につきまして、状況を詳しく、地域に貢献している内容につきまして、ご説明をいただきましてありがとうございました。</p> <p>大変大規模校から、専門高校2校を南国市に設立されているわけですが、やはり私は、専門高校というのは、地域の産業なりに貢献するという、人材育成というのは大事だと思います。</p> <p>高知農業高校と高知東工業高校、農業系、工業系ですけど、この2校が高知県の産業振興はもちろんですが、南国市の産業振興にどんな貢献をしているのかということと、それに対して、学校に望むことがあるのかとか。</p> <p>高知農業高校では、バイオテクノロジーのお話もございましたが、少しその辺について教育長さんとして、南国市の産業振興について専門高校がどんな役割をしているのか。さらにいっそう振興するためには、どういうふうな人材育成というんでしょうか、教育内容が求められるのかというような点を、お話しただけならというふうに思っております。</p>
南国市教育長	<p>すみません。その辺もあまり十分掌握してないんですが、ただ例を挙げますと、先ほども名前を出ささせていただきました株式会社垣内さんとかが栄光工業さんなんかは、高知東工業高校の方々も、中学生も現場へ行って、本当にいわゆる体験というんですか、キャリア教育につながる、そういうことをやってくださっております。</p> <p>そういう意味での、やはり動機づけというんですか、高校生についても中学生についても、そういう面で、工業、ものづくりというのは、こんなに楽しいんですよということを、実際に体験させていただくということが、メリットとして大きいと思います。</p> <p>高知農業高校も同じでございます、プランター作り等、保育所、幼稚園から小学校、中学校まで一緒に取り組んでくれるんです。</p> <p>各小学校は近所に田んぼを借りまして、稲作りをしております。そこで近所の方と一緒に田植えをし、収穫をしたら一緒に、その収穫で食事をするというような形で、各小学校が近くの農家の方々と連携して、田んぼを借りて、稲作りから収穫までの活動に取り組んでいます。</p> <p>プランターの花作りから、プランターでの植物の栽培等、いわゆる食の教育というんですか、農作物を自分たちで作って、それを収穫して一緒にいただいていく。そういうふうな取組が、高知農業高校の実態を踏まえて、私どもの小学校、中学校でもできておりますので、それが高校生にもつながっていていると思っております。</p>

	<p>いわゆる南国市の農業、海岸線がもうずっとハウスでございますし、いろんな面で米作り等に大きく貢献していただいているというふうに、私は認識しておりますが、細かい、具体的なことについては、お許しいただけたらと思います。</p>
平田委員	<p>ぜひとも、南国市として、地域の学校として、農業教育っていうのは、南国市の農業を支えているっていうのは、間違いないでしょうし、高知東工業高校としては、高知市、南国市の地場産業の人材育成に努めていると思います。また、岡豊高校は、体育コース、芸術コースを持ち、それと普通科は8クラスだと思うのですが、県内で最大というお話でした。そういう3校が設置されておりますので、ぜひ、南国市の教育長さんとして、できる活性策についてのご支援とか、今まで以上に学校と連携をして、この3校の活性化に、またご尽力いただければ、高等学校もそれに応えた経営ビジョンを立てると思いますので、よろしく願いいたします。</p>
南国市教育長	<p>今、平田委員もおっしゃってくれましたが、実は中学校4校の校長と、それから高等学校3校の校長、あるいは副校長、場合によっては事務長も入られるんですが、そこと南国市教育委員会事務局とが、「南国市教育交流懇談会」というのを開いております。</p> <p>そういう面での3校と教育委員会、それから中学校との交流ということも、非常にできておりますので、そういう面での、中学校の取組への高等学校の校長先生方のご理解、また中学校の方にこういう子どもを、ということのお話もいただけます。</p> <p>ということで、中高の「教育交流懇談会」というのが、南国市の小中学校の教育の充実には、大きく力を与えていただいておりますので、改めて感謝を申し上げます。</p>
竹島委員	<p>高知東工業高校に関しては、学科改編がもしかしたらこの先、あるかもしれませんが、やはり県外への就職が少し多いというか、何とか県内に就職を、もう少しされるようにしてもらえればいいと思います。</p> <p>高知農業高校に関しましては、山田高校同様、すごく地域に密着されているので、場所的というか、高知市内の方からもたくさん、今、来られていると聞いていますので、あとは、なんとか人数を確保されればいいと思います。</p> <p>あと、岡豊高校に関しましては、本当に今、文武両道で頑張ってくれていますし、今年度からスポーツの方にもすごく力を入れるようになっておりますので、本当に小中高と連携されて、ゆくゆくは南国市に帰って来てくれる人材育成ができると、本当にいいと思いますし、南国市の発展は南国市の子どもにかかっているのかなと思います。</p> <p>私、三和小学校出身で、香長中学校はすぐ、徒歩で5～6分だったんですけども、すみません、高知市の中学校に行きましたので卒業生ではないのですが、でも、すごく南国市が頑張っているとうれしく思いますので、これからもよろしく願います。</p>
田村教育長	<p>これで、予定しておりました、皆様からのご意見は終了いたします。</p>

○会場からの意見聴取

田村教育長	<p>会場の方で、特にご意見がある方ございましたら、お受けするようになりたいと思いますけれども、いかがでございましょうか。</p>
岡豊高校 PTA 会長	<p>岡豊高校の PTA 会長です。</p> <p>ちょうど、大野教育長から南国市のことをお話ししていただいて、実は私の方も、子どもがたくさんおりました、今、それこそ白木谷小学校に 1 名、北陵中学校に 2 名、岡豊高校に 1 名という形で、南国市の方の小、中、高で、子どもたちが通わせていただいております。</p> <p>保護者からの意見という形ですが、実際、学校へ通っていて、白木谷小学校に関しては、やはり PTA の会とかで、よく保護者同士で話し合いをすると、特認がやっぱり多いので、奈路小と一緒にすけれども、特認が多くて、地元の活性をいかにして今後、続けていくか。中山間をやっぱり守っていききたいという、特認の保護者さんがとても熱心に、今、活発に活動をしていただいております。</p> <p>すごく PTA の連携も強く、ただ地域の方が、もうかなりお年を召しているの、そこがちょっと、なかなか今、難点になっているところですが、なんとか白木谷の地区を残そうということで頑張っています。</p> <p>あと、中学校に関しては、子どもたちが、上がもう二人、北陵中学校を卒業しましたが、白木谷小学校から北陵中学校に進むということで、かなり不安がありました。</p> <p>というのは、やはり上の子たちの場合には、本当にみんな複式学級で、2 人ぐらいのクラスで、先生が教えてくれているとかするような学級から、いきなり北陵中学校のような、校区の広い学校に行ったということで、かなり保護者としては不安でした。私の子どもの同級生も一人不登校になったりとかして、今、保護者とかで色々話し合いをしているところです。</p> <p>あとは、岡豊高校に関しましては、私は実は岡豊高校の一期生で、子どもが長男と、今通っている長女が、岡豊高校に行かせてもらっています。先ほどおっしゃっていたように、本当にマンモス校で、その特色もあり、すごく部活動が盛んであるっていうのは、すごく魅力的だと、私も思っています。</p> <p>私の長男も吹奏楽部に入って、100 人のメンバーで頑張っていて、3 年間頑張らせていただいて、本当にいい 3 年間を送らせていただきました。</p> <p>高知農業高校に関してなんです、今のところ私は、高知農業高校は特に関係者ではないんですけども、南国市の白木谷の方で、山地酪農っていう酪農をやっております。50 年牧場をやっておりまして、今二代目で、次男の方が高知農業高校に今、北陵から行きたいと言っています。</p> <p>あと、高知農業高校とは 10 年ぐらいになるかもしれないんですけど、実は、私は個人的に犬のトレーナーをしていて、専門学校で講師をしているので、今、嶺北高校の方に行かれた先生から頼まれて、高知農業高校で毎年、1 年に 1 回、犬の話をしてくれということで、授業を 4 時間ぐらい持たせてもらっています。</p> <p>そこで感じたことは、先生と話をした時に、高知農業高校に今、どういう子が来ているのかっていったら、なかなか後継者という形ではなく、昔</p>

	<p>と違って農業自体が就農をされる方が少ないこともあり、親を継ぐという形の子があまりいないとのことでした。</p> <p>むしろ普通校に行っている感覚で来られるという子が多くて、先生がその時に、「動物がいっぱいいるって言って来る子が多い」という話をされてきました。なので、犬がおらんとかって言われたので、先生も犬を拾ってきて、犬を飼ったりとかして、15年ぐらい犬を飼ったりしていますが、そういう感じの子もかなりいるようです。</p> <p>学校に関わらせてもらっていて、やはり地域にすごく密着をするという取組をされており、子どもをとにかく学校から出すということです。</p> <p>それで、私の牧場にも実習で来ます。ご褒美は何かって聴くと、「褒めてあげてくださいって、それだけで結構です」とのことでした。大人から褒められるというのが、なんか、子どもからしたら、世の中に出て行く第一歩で、認められるっていう一番の喜びやから、いろんな地区の農業のお手伝いをしながら、回って行きながら、それをしてもらえそうな学校にしていく、っていうのをやられていたようです。</p> <p>私の方は、一応二代目なので、三代目ということで酪農を継ぐという形ですけれども、なかなか大変です。実は私、土佐FBC（土佐フードビジネスクリエイター）の方にも入っていて、いろんな、南国スタイルさんとか、南国の方で農業を活性化しようと頑張っている方々とお話をするんですけど、なかなか難しいです。</p> <p>南国市は農業が盛んであると言いながらも、やはり農業から離農してしまうとか、若い方が定着しないというのも、講習とかの話題に出てくるのを、よく聞いておりますので、なんかそういうところも本来は、地域を、南国市を農業が盛んな土地として、今後残していくのには、やはり必要なものなのではないのかなと思っています。</p> <p>特に、高知大学の農学部もありますので、農学部とかと色々と連携をされると、もっともっと地域に貢献をしていけるような子たちが、ここに残っていけるのではないかなという感じもあります。以上、実際に通っている者の意見として、言わせていただきました。</p>
田村教育長	<p>高知農業高校には、色々とお手伝いもいただいているということで、本当にありがとうございます。</p>
	<p>そういった立場から、高知農業高校の大切さとか、高校観についても、お話をいただいたところでございますけれども、特に今のお話について、ご質問等ございませんか。よろしいでしょうか。</p> <p>その他、ございますでしょうか。よろしいですか。</p>
各委員	<p>構いません。</p>
田村教育長	<p>それでは、特にないようでございますので、以上で、ご意見を伺う場は終了させていただきたいと思っております。</p>

【閉会】

田村教育長	そしたら、事務局から何かありますか。
山岡企画監	特にありませんが、次は、12月4日に教育委員会協議会を開催します。よろしく願いいたします。
田村教育長	はい。次回、12月4日ということでございますね。よろしく願いします。 それでは、今日は本当に長らくお付き合いいただきまして、ありがとうございました。以上で終了させていただきたいと思います。